

賑わいづくりのための具体的戦略について

昨年度のまちづくり推進検討委員会において、「賑わいづくりのための基本的方向性」について検討し、以下のとおり3つの柱としてとりまとめられた。

「交通環境の改善による賑わいづくり」

（背景）

その場所が人々で賑わうためには、誰もが来やすく、歩きやすく、人溜まりができるような場所でなければならない。

そのためには、バリアフリーを基本とした安心・安全で快適な交通環境に改善し、公共交通の利便性を高めるとともに、適量の駐車スペースと誰もが集えるオープンスペースの確保などを併せて考えていく必要がある。

「景観形成・地域資源による賑わいづくり」

（背景）

その場所が、住む人々や来る人々にとって魅力的な場所でなければ、賑わいを得ることは難しい。

そのためには、ファサード計画等の検討により街そのものが魅力的になることや、見たいもの・知りたいものが存在すること、また、他の観光地への中継地として十分な情報が得られるような仕組みづくりなどが必要である。一方、商業地域に用途変更された大月駅北口の空閑地の利活用については、南北地域が相互に賑わいを高められるような方策を考えていく必要がある。

「持続的な賑わいづくり」

（背景）

賑わいづくりが一過性のものであってはならない。中心市街地の快適な日常生活や健全な経済活動が持続できる仕組みを考え、中心市街地が人々を引き寄せ、魅力ある場所となることが重要である。

そのためには、商店街組織の中でリーダーシップを発揮できる人材の発掘・育成と、地域の中で潜在的に能力を持つ人がその力を十分に発揮できる環境づくりが必要であるとともに、中心市街地の魅力を効果的に内外に発信する仕組みづくりも必要である。

今年度においては、基本的方向性の3つの柱それぞれに対し、「課題」、「方策」、「具体的な施策イメージ」の検討・確認を行い、それらについてニーズ、優先度、実行性などの検討を行っていく。

ターゲット(賑わいの主役)
 ア：観光客・来訪者 ウ：市内他地域の住民
 イ：駅周辺の地域住民 エ：通勤・通学者

1. 交通環境の改善による賑わいづくり

(1) ユニバーサルデザインに基づく整備

ターゲット ア,イ,ウ,エ

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
大月駅周辺整備事業で、駅周辺の公共空間のユニバーサルデザイン化は促進されるが、民間建築物と一体となったユニバーサルデザイン化を推進する必要がある。	公共空間をユニバーサルデザインにより整備する 民間建築物のユニバーサルデザイン化を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 公共空間の整備(歩道の段差解消、点字ブロック、案内板、ベンチ等) 民間建築物に対する誘導策の検討(ガイドラインの策定)

(2) 公共交通機関の充実を図り、その利用を促進する

ターゲット ア,ウ,エ

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
大月市では自動車の利用者が多いにも関わらず、駅周辺には駐車場が少ない。路線バスは路線や本数が少なくないにも関わらず、利用が伸びない。今日では、環境問題等の社会的背景を考慮し、市外への移動や長距離移動の際には、自動車よりも鉄道の利用を促進する必要がある。	官民による駐車場の整備を行う 路線バスの利用促進を図る 鉄道利用の促進を図る	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の整備 おでかけバスの利用促進

(3) オープンスペースの活用

ターゲット ア,イ,ウ,エ

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
オープンスペースの具体的な利用方法について、どの程度のイベントを考え、それに対する問題点を整理し、どのような利用が可能かを検証する必要がある。	オープンスペースの整備を行う オープンスペースの利用方法を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 駅前広場の整備 イベントの検討

ターゲット(賑わいの主役)
 ア：観光客・来訪者 ウ：市内他地域の住民
 イ：駅周辺の地域住民 エ：通勤・通学者

2. 景観形成・地域資源による賑わいづくり

(1) 大月の自然・文化・歴史などの地域資源を活かす

ターゲット ア

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
大月の魅力は、一駅逸品運動から再認識された。今後、これらの中からより効果的に大月をアピールできる魅力を選出し、体験する場所の整備と、そこへたどり着くために必要な情報が得られるような仕組みづくりを考える必要がある。	大月の魅力を知る、創る、理解する 体験する場所、誘導する仕掛けづくりについて検討する 体験する場所の整備、誘導する仕掛けづくりを行う	<ul style="list-style-type: none"> 一駅逸品運動の充実 (仮)一駅逸品展示館(観光案内所とのタイアップ)の検討 誘導する仕掛けづくりの検討(案内板、ガイドボランティア等)

(2) 魅力的な中心市街地の街並み(見たい、行きたいと思える街並み) を作ることで、訪れる人へのおもてなしを演出

ターゲット ア,ウ

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
「大月駅南口賑い街並みづくり申し合わせ」は確認されたものの、住民間で、大月市や中心市街地における魅力的な街並みのイメージが統一されていない。今後も、住民間で魅力的な街並みについて議論を続け、街並みについてのイメージを確立する必要がある。	大月における魅力的な街並みについて検討する 魅力的な街並みをつくる	<ul style="list-style-type: none"> 大月駅南口賑い街並みづくり協議会¹の活動(住民間相互の情報交換・共有、申し合わせの普及拡大) (仮)まちづくり協議会²の組織化

(3) 北口空閑地の利活用

ターゲット ア,イ,ウ,エ

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
南口と一体となった賑わいづくりを行うために、大月駅北口をどのように利用するか、議論する必要がある。	南北の連携を前提とした再開発の在り方を検討する	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり推進検討委員会の提言

1 大月駅南口賑い街並みづくり協議会 : 大月駅南口の地権者で構成される、街並みづくりの申し合わせを確認した組織
 2 (仮)まちづくり協議会 : まちづくり推進検討委員会の活動が終了した後にまちづくりの検討を継続的に行うためにつくられる組織

3. 持続的な賑わいづくり

(1) 既存商店街・個店の再生

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
<p>中心市街地における健全な経済活動を持続させるためには、既存商店街・個店が、消費者ニーズに対応した業種・業態へ転換することの推進が必要である。また、事業主体の高齢化、空き店舗によるイメージの悪化、新規事業への挑戦の場の不足、商店街の活性化に必要なとなる人材の不足も、解消すべき課題である。</p>	<p>利用者の視点に立った商店街づくりを行う 活性化に対して積極的に考え、行動できる人を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規事業、事業転換への支援方策の検討 ・ 空き店舗の活用(産学官連携の取り組み等) ・ 活性化のためのスキルアップ(人材育成) ・ 活動の場の提供(勉強会、講演会)

(2) 核となるイベントづくり

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
<p>どのようなイベントが全国的にアピールできるのか、どのようなイベントを行えば、より効果的に大月の魅力を発信できるのかが課題である。イベントが一過性の賑わいとならないよう、持続的なもの考える必要がある。</p>	<p>イベントを類型化(歴史型、地域特性型、地域産業型、誘致型)し、どれを伸ばしていく必要があるかを検討する。 イベントについて、より集客性を高めるための検討を行う 新たなイベントの検討を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくり推進検討委員会の提言

(3) 地域コミュニティを強化し、地域が一体となった取り組み

課 題	方 策	具体的な施策イメージ
<p>賑わいづくりは一部の市民の努力だけでは持続しない。賑わいづくりのターゲットも巻き込み、地域住民間の情報交換や自主的な活動を通して、地域が一体となったまちづくりを行う必要がある。また、大月の特色である学生を活かすこと、団塊の世代や東京への通勤者の中から有能な人材を発掘し、潜在的な労働力を活かすことが必要である。</p>	<p>(仮)まちづくり協議会等の組織により、まちづくりに関する話し合いを継続して行う 賑わいづくりに対して積極的に考え、活動できる人(全分野から)を発掘し、育て、活用する 様々な組織によるまちづくりを促進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (仮)まちづくり協議会²の活用 ・ 人材バンク(協力者、パート、バイト、生産者などを登録)の創設 ・ 自治会、学生、サークル、NPO、企業等の活動の推進